

---

# ハロウィンの夜

綾小路 アキ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ハロウィンの夜

### 【Nコード】

N61620

### 【作者名】

綾小路 アキ

### 【あらすじ】

ハロウィンの夜に訪ねてきた子供は・・・

これで準備は整った。  
書類を机に置き、俺は立ちあがる。

するといきなり目の前に、妙ちくりんな格好をしたガキが現れた。  
なんだお前は。一体何処から湧いて出た？

「TRICK OR TREAT!」

「はあ？」

「いたずらかお菓子か!」

「何言ってるんだお前、……ってか、お前誰？ どこから入って来たんだよ」

「おじさん、知らないの？ 今日はハロウィンだよ？」

「知らねえよ、俺はな、そんな西洋かぶれのお遊びなんて興味無いんだよ。とつとと帰れ」

「お菓子をくれなきゃいたずらするよ!」

「菓子なんかねえよ、悪戯したけりゃするがいいさ、お前なんかは何されたって痛くも痒くも何ともない」

「お菓子、ホントに無いの？」

「ねえって言ってるだろう! ったく勝手にひとんちに入って来やがって不法侵入で訴えるぞ!」

「そっか…… 無いんじゃないね。じゃあ、バイバイ」

「ああ、帰れ帰れ!」

踏み台代わりの椅子を蹴った次の瞬間、俺は床に転がり落ちていた。

梁から下がったロープは、ほんの僅かの繊維を残し、ものの見事に切られていたのだ。

あのがき、ほんとに悪戯していきやがった。

なんだか馬鹿馬鹿しくなって、俺は机に置いた遺書を破き、ゴミ箱に放り投げた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6162o/>

---

ハロウィンの夜

2010年10月31日15時12分発行